

聖書

エレミヤ29・10～14

タイトル

希望に満ちて

暗唱聖句

あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。
(エレミヤ29・11)

目標

望みの神にあって新しい年をスタートする。

1月2日(日)

聖書 エレミヤ29・10～14

涙の預言者のエレミヤが、将来に希望を与えようとしていくたさる神様の計画のことを話しています。70年の悲しみのあと、きつと喜びの日がくるから。と。神様の計画は「きつと」とそのとおりになるのです。お正月にたてた私の計画は？これまでどうでしたか？私のことを何もかも知っていてくたさる神様が私のためにも希望の計画をたてていくたさるのです。

1月3日(月)

聖書 エレミヤ31・1～6

なぜなら、神様は永遠に変わらな愛をもって愛していくたさるので、私のために一番よい、最高の計画をたてていくたさいます。そして、神様は真実をつくして私をこの計画のとおり導き続けていくたさるのです。私のためのも一番よい計画って何でしょう？それは毎日毎日神様といっしょに歩いて、永遠に神様といっしょにいることです。希望に満ちて歩みましよう。

1月4日(火)

聖書 エレミヤ31・31～34

神様とともに歩み、神様の計画の中を歩む道はただ一つ。わがままの罪をゆるしていくたさる神様を信じ、心からおわびして神様の言われるとおりに生きていくことです。今日の神様の新しい約束は素晴らしいもので、私の心の中に神様の言葉をしるしていくたさると言われます。昔イスラエルの人々は失敗しましたが、今度は心の中から神様がお話していくたさるというのです。

1月5日(水)

聖書 エレミヤ32・16～26

神様がお話していくたさり、導いてくたさると共に、私の話もちやんと聞いてくたさいます。「こたま」って知っていますか？「ヤッホーッ」と呼ぶとこたえてくれるみたいに「ヤッホーッ」ってひびく声のことです。17節と27節を見てくたさい。神様が何だか「こたま」のようにエレミヤにこたえていくたさいます。あなたのお祈りにもこたえて、導いてくたさるのです。

1月6日(木)

聖書 エレミヤ33・1～9

だから、しっかりと祈りしなさい、さあ、お祈りをはじめて「うん」なさい、お祈りをやめないで続けていきなさい。もうこれくらいでとあきらめたりしないで、まだまだ、どんどんお祈りをしなさいと、神様ははげましていくたさいます。そうしたら、今まで知らなかった大きなこと、考えたこともないようなことがわかってくるからと言われます。祈りの一年にしまじよう。

1月7日(金)

聖書 哀歌3・21～31

ああ、もうだめだ、どこにも希望がないよと、イスラエルの民にとって暗い暗いとき、エルサレムがバビロン軍に焼かれて、人々が悲しみと苦しみのどん底にあつたとき、涙の預言者エレミヤが歌いました。「望みはただ一つ、いやただおひとり、神様のいつくしみはなくなつてはいない。あわれみもそつだ、どんな中でもこの神様だけに望みをおき、期待して待ちましよう」と。

1月8日(土)

聖書 エゼキエル36・22～32

とても望みがないよと、失望してしまつのが「人の心」だと思いませんか。わがままな心、がんこな心、つつはねる心、すねる心、ふてくされる心、いつわる心、ねたむ心、うらやむ心、つつはい、エレミヤと同じく「バビロン」で預言したエゼキエルも同じように新しい心、新しい霊を与えてくたさる神様のことを語ります。イエス様を信じるとき、この預言が本当になるのです。



聖書

エズラ1・1～11

タイトル

感動に満ちて

暗唱聖句

イスラエルの神、主の宮を復興せよ。
(エズラ1・3)

目標

驚くべき復興は、み言葉の成就であることを知る。

1月9日(日)

聖書 エズラ1・1～11

ペルシャ王クロスが王位についた年信じられないような命令が王の口から出ました。「ユダの人々よ、エルサレムにのぼり、主の宮を建て直しなさい」それはエシメヤの預言のとおり、バビロンでの70年が終わったからです。約束を守られる神様が、クロス王の心を動かしたのでした。そして、王の言葉を聞いたユダの人々の心をも動かしました。感動物語ですね！

1月10日(月)

聖書 エズラ2・64～70

2章全体は読みにくいカタカナの名前がズラズラならんでいます。ちゃんと読めるかな？この人たちはクロス王の命令をちゃんと聞き、心にうけとめ、ともに感動した人々です。エルサレムが荒れていることも、長い旅が危険なこともみんな知っていました。しかし、「主の宮のために」と立ち上がった大切なひとりとびとりのです。だから神様は喜んでこのリストを記させました。

1月11日(火)

聖書 エズラ3・10～13

定礎式って知っていますか？どんな建物でも、その基礎をきちんとします。その基礎ができて、その上に建てるのですが、このところは基礎がすえられたことを記念し、感謝して神様をみんなでさんびした記録です。うれしくもありましたが、前の大きく美しいソロモンの宮を知っていた人々は泣きまじった。喜びの叫びと大声で泣く声と、とてもにぎやかな定礎式となりました。

1月12日(水)

聖書 エズラ5・1～5

神様の働きが進むと悪魔はねたんで必ずじやまをします。その地の民が敵となって王様にうまく話して、とうとう工事が中止され15年もたちました。ところが神様の預言者たち、ハガイとゼカリヤは弱っている民、あきらめている民を元気づけました。リーダーのゼルバベルとエシヤアのもとに民は奮い立ったのです。人を励ますことはとても大切なことですね。

1月13日(木)

聖書 エズラ6・1～12

でも敵はそれでだまったりしません。川向こうの反対者たちは、ダリヨス王に手紙を出して言います。「はたして本当にクロス王は主の宮を建てるように命じたのですか、調べてください」と。州都エクバタナで見つけた1つの巻物、クロス王の命令、「主の宮を建てさせよ。その費用は王の家から」と、何と反対者の税金が主の宮の建築のために用いられていたのです！

1月14日(金)

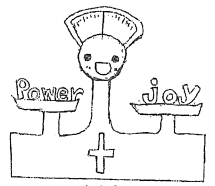
聖書 エズラ8・15～23

アハワ川のほとりの断食。エズラが民とともにエルサレムに帰ろうとしたとき、みな断食して祈りました。以前、王様に「神の手が私たちを守られるので歩兵や騎兵の守りはいりません」と、信仰をもって話していたのです。神よ、王様に頼るのは信仰者として恥だと思っていたので、断食して祈り求めて神様がそうしなさいと言われました。神様だけへの完全信頼のすばらしさ！

1月15日(土)

聖書 詩篇126・1～6

この詩篇は、神様がクロス王を用いてバビロンからユダの地に帰らなさいという命令を出させ、人々がユダの地へ帰っていったときのようすを記しています。「夢みる者のよう」「口は笑いで」「舌は喜びの声で満たされました。私たちの神様は回復の神様、復活の神様、神様からの希望は絶対に失望に終わりません。涙をもって種をまく人は必ず喜びの声をもって刈り取ります。



聖書 ネヘミヤ8・1～12

タイトル よろこみ 喜びに満ちて

暗唱聖句 あんしゅせいこく 主を喜ぶことはあなたがたの力です。
(ネヘミヤ8・10)

目標 もくひょう 聖書の神を喜んで力に満たされよう。

1月19日(水)

聖書 ネヘミヤ4・15～23

城壁工事がどんどん進むと、やはり敵の力が迫ってきました。サン巴拉、トビヤとその仲間たちが邪魔をしたり、工事をやめさせるために、民を殺す相談までしました。ネヘミヤは民を元気づけ、主を覚え、共に戦ってくださいる神様にあつて戦つように励ましました。片手に武器を持ち、片手で工事をし、半分の人々は、やりをもって工事を見守る力強い協力体制をとりました。

1月16日(日)

聖書 ネヘミヤ8・1～12

みんなはどんなときに泣く? 痛いとき、こわいとき、くやしきとき、さびしいとき、おなががすいたとき、ここで民たちが泣いたのは…神様の律法の書が読まれるのを聞き、自分たちが神様の前に罪を犯していることがハッキリわかったので、神様こめんなさいという涙をいっぱい流しました。でも、ネヘミヤとエスラは「主を喜びなさい、それが力です」と励ましたのでした。

1月20日(木)

聖書 ネヘミヤ6・1～9

敵の力はとても手こわいのです。今度はネヘミヤを誘い出して害をくわえようとした。オノの平野の1つの村で会おうと使者をつかわして言ってきました。ネヘミヤも使者をつかわして、「私は大いなる工事をしているから下って行くことはできない!」と、敵は4度も言ってきました。5度目は神殿でと誘います。ネヘミヤはすべて見破り、完全に敵から守られました。

1月17日(月)

聖書 ネヘミヤ1・1～11

今週はネヘミヤとその働きを見てみましょう。ペルシャ王の給仕役をしていたネヘミヤのもとに、エルサレムの城壁がくずされ、門は火に焼かれたままで、民は大いに悩んでいるとのニュースが告げられました。ネヘミヤは泣き悲しみ断食して祈りました。どうかあなたの民をあわれんでください、私に恵みをくださって、何とか彼らの力となるようにしてくださいと。

1月21日(金)

聖書 ネヘミヤ6・15～19

こうしてついに城壁は52日かかって完成しました! どんなにうれしかったことでしょう。今まで邪魔をしてきた人々さえ、この工事にはイスラエルの神様の助けがあったことを悟ったのでした。神様のために何かしようとする時、必ずと言っていいほど、敵、悪魔が邪魔をします。その時、私たちがネヘミヤのように祈り、神様の助けをしっかりと信じてやり抜きましょう。

1月18日(火)

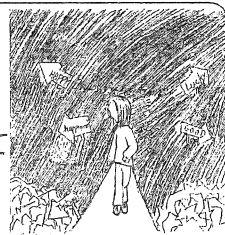
聖書 ネヘミヤ2・11～20

悲しみに沈んだネヘミヤの顔を見た王様はそのわけをたずね、ネヘミヤがエルサレムに行くことをゆるしてくれました。川向こうの州の知事たちに王の手紙を渡すと、まだしても気を悪くする人々がありました。しかし、ネヘミヤはとても賢く行動しました。まずは、だまってエルサレムのあちらこちらを調査したのでした。とても大切なことを、ただ神様とともにしました。

1月22日(土)

聖書 ネヘミヤ7・1～4

何でも完成した後が大切。ネヘミヤはエルサレムをちゃんと治める人々を任命しました。この人々は多くの者にまさって忠信な、神様をおそれる者であつたからです。忠信とは? まじめで、まかせておいても大丈夫で安心できる人。なぜなら、神様を心から敬い従う人々だったからです。だから8章のリバイバル。私たちも神様に安心して用いてもらえる人になりたいですね。



聖書

エステル4・1～17

タイトル

ささげる愛に満ちて

暗唱聖句

わたしがもし死なねばならないのなら、死にます。
(エステル4・16)

目標

ささげて生きる、新しい尊い生き方を知る。

1月26日(水)

聖書 エステル2・19～23

エステルはすこくえらい位についたのです。広い広い国を治めるアハシュエロス王の王妃となったのですから、いはり散らすようになったのでしょうか。いえ、エステルは王妃になっても、モルデカイに養育されたときと少しも変わらないで、彼の言葉に素直に従い続けました。自分がユダヤ人ということを、前と同じように誰にも知らせなかったのです。立派ですね。

1月23日(日)

聖書 エステル4・1～17

人がその友のために命を捨てること、これよりも大きな愛はないと聖書は言います。ペルシャの王宮で、ユダヤ人である王妃エステルが示した愛でした。ユダヤ人全滅計画が悪いからハマンによって立てられ、それを止められるのは、エステルが死を覚悟で王様に近づき願ったことだけでした。「わたしがもし死なねばならないのなら、死にます」とエステルは愛の決心をしたのです。

1月27日(木)

聖書 エステル3・1～6

祝福された神様の民を、悪魔はいつもねらっています。ここに悪魔の手の中で用いられたハマン大臣登場です。ハマンはエステルと全く反対で王様に気に入られて一番えらい大臣になると、とだんにいびりだし、みんなに自分を拝ませました。モルデカイだけは拝まなかったのです。すっかり頭にきてしまつて、とうとう、モルデカイだけでなくユダヤ人全滅計画を立てました。

1月24日(月)

聖書 エステル2・1～11

エステルのささげて生きる尊い生き方を学びましょう。ペルシャ王の新しい王妃選び、その候補者の中にエステルも入りました。親に死なれたエステルを引き取り育てていたモルデカイは、あつい信仰の持ち主でした。神様からの知恵で、エステルに自分がユダヤ人だということを誰にも言わないように命じました。エステルはどんなこともモルデカイの言つとおりにしました。

1月28日(金)

聖書 エステル5・1～8

3日間の断食のお祈りのあとです。エステルは死ぬ覚悟で、王妃の服を着て、召されていないのに、王宮に入り、王様の広間にむかって立ちました。さあどうなりましたか。王様は王妃エステルに恵みを示し、その手にある金の笏をエステルの方にのばしました。命は助かったのです。願いは何かと聞かれ、宴会に王様とハマンを招待しました。神様からの知恵を働かせました。

1月25日(火)

聖書 エステル2・15～18

私もあの人のようになりたいなと、すべての人が思い、すべての人に喜ばれていた人、それがエステルでした。エステル、すなわち「星」という意味の名のとおり輝いていたのです。王の侍従ヘガイが勧めた物のほか何も求めず、みにくい欲など全然ない人でした。王様の所に行く順番がきて王宮に行つたエステルの頭に、ついに王妃の冠が与えられて王妃となりました。

1月29日(土)

聖書 エステル7・1～10

この書には1回も出てこない「神」という字。しかし生き生きと働いておられる神様のまさに「逆転劇」の巻。2回目の宴会において「あなたの願いは何か」とたずねる王様に、エステルは「ユダヤ人の命を救ってほしいこと、全滅計画の張本人は悪い敵ハマンだ」ということをきっぱりと告げました。ハマンは木にかけられエステルとユダヤ人は勝利。信仰の力でした。



聖書

Ⅱコリント 5・11～21

タイトル

新しい命に満ちて

暗唱聖句

だれでもキリストにあるなら、
その人は新しく造られた者である。
(Ⅱコリント 5・17)

目標

キリストにある新創造の恵みにあずかる。

2月2日(水)

聖書 Ⅱコリント 6・1～2

新しく心が生まれかわった人は、実は神様との和解、つまり仲直りができた人なのです。だから、今度は神様と仲直りをしましょう、してくださいとすすめていくのが大切です。というのも、終わりの時が迫ってきているからです。でも今はまだ恵みの時、救いの日、今ならまだ間に合うよ、今のうちにあなたも君も、イエス様を信じて新しく生きようよとすすめてみましょう。

1月30日(日)

聖書 Ⅱコリント 5・11～21

新しい二〇〇五年の年も明日で1ヶ月が終わります。新しい洋服も靴もおちやも、もう古くなっちゃった!? 新しい決心をした心も、去年とやっぱりいっしょ!? 心の底から新しくきよい人になるにはただ1つ、「だれでもキリストにあるならば」です。古い罪をおわびして、イエス様の十字架を仰いで罪のゆるしを信じイエス様を信じるとき、本当に新しく生まれ変わります。

2月3日(木)

聖書 Ⅱコリント 6・3～10

みごとに新しくされたパウロは、もちろん、その務めを命がけて果たしていった人でしたよ。神様のしもべとして、人につまづきを与えないようにしながら、考えられないような、聞いただけでもぞくぞくするような苦しみ耐えながら、そんなに言うならやめるぞ、なんて絶対思わないで、神様との仲直りは、すべての人にとって命ほど大事なことであったからなのです。

1月31日(月)

聖書 Ⅱコリント 4・16～18

どんなにハンサムな人でも、美人でも、元氣モリモリの人でもみんな年を取っていくと外なる人、すなわち身体は弱りおとろえていきます。でもイエス様を信じる者は落胆しない、つまりがっかり、しょんぼりしないのです。なぜなら、「内なる人」の心と霊に、神様の言葉が毎日いただいて、日に日にリフレッシュされていくからです。毎日言葉で新しくされましょう。

2月4日(金)

聖書 Ⅱコリント 6・11～18

新しい命をもらった人が心にとめる大切なことがここに書かれています。それはきよい神様のきよい命をもらったので、それをずっときよく守るということです。不信仰、正しくないことやみ、偶像からはっきりと一線を引いておきましょう。神様を信じない人がいろんなことを言っても、神様の言葉の光の中を歩いていきましよう。心がきよいということが一番の力です。

2月1日(火)

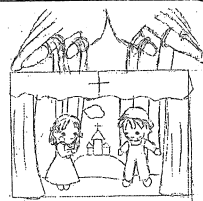
聖書 Ⅱコリント 5・1～10

イエス様を信じて新しく心が生まれかわった人には、さらにすごい望みが約束されています。天にある永遠になくならない、これれない、死なない幕屋(＝身体)です。そのことをしっかりと心にもって、地上を『信仰によって』歩むならば、とても安心で心強いよとパウロ先生は書いておられます。そしてだ、神様に喜ばれることを心の願いとして生きていきましよう。

2月5日(土)

聖書 Ⅱコリント 8・1～9

教会は「地上の天国」と言われます。パウロ先生の伝道で新しく生み出されたマケドニアのピリピ教会の人々が、どんなに新しい素晴らしい命、愛の命に満ちていたか記されています。自分たちも苦しい中にあり、ギリギリの貧しさだったのに、自分たちの力以上にパウロの伝道のためにささげました。それは貧しくなってくれたかったキリストの愛に燃え燃えていたからです。



聖書

Iヨハネ3・1～3

タイトル

神の子として

暗唱聖句

わたしたちは、すでに神の子なのである。(Iヨハネ3・1)

目標

父なる神の大きな愛の中に神の子とされたことを喜ぶ。

2月9日(水)

聖書 Iヨハネ2・1～6

神の子とされた人は、神様になったのでも、天使になったのでもありません。今までとかわらず疲れやすい肉体や弱い心や霊をもつ者ですから、『もしかして』また罪を犯すかもしれません。そのときはごうしまししょう? 「父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリスト」がおられて、いつも助けて救ってくださいと聖書は言います。

2月6日(日)

聖書 Iヨハネ3・1～3

先週はずっとキリストにある新しい命についてみてきました。そうです。そのようにして、「わたしたちは、すでに神の子」なのです。神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父なる神様からいただいているのか? 何度でも思い返すことは、私たちの心を感謝で満たします。しかもイエス様が再び来られる時、主を見て、私達もイエス様のようにされるのです。

2月10日(木)

聖書 Iヨハネ3・13～24

私たちが神の子とされるために、父なる神様のものすごく大きな愛が注がれたように、またイエス様の大きな愛が注がれました。それは、神のひとり子のイエス様が十字架の上に命をも投げ出す愛でした。ヨハネは十字架のふもとでハッキリとその愛を見ました。だから、そんな愛を知った私たちは口先だけの愛でなく、いのちがけで友を愛する真実な愛に生きるべきなのです。

2月7日(月)

聖書 Iヨハネ1・1～4

今週はイエス様のお弟子、愛の使徒ヨハネの手紙から「神の子として」の生き方を学びましょう。ヨハネが喜んで告げ知らせたかったこと、それは私達をきよい交わりに招くことでした。神の子の交わり、それは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことです。なんと驚くべき交わりでしょう! この交わりにあずかるなら、喜びが満ちあふれて仕方がなくなります。

2月11日(金)

聖書 Iヨハネ4・7～21

神の子とは神から生まれた者で、神を知っていて、互いに愛し合う者のことです。『神は愛である』God is love. この短い文章が、広く深く高く長く、どんなにか多くのことを豊かに含んでいることでしょうか。神が先に一方的に私達を愛して、罪に満ち愛のないところから救い出すために御子をつかわされた、『ここに愛がある』最高最大の無限不変のアガペーの愛なのです。

2月8日(火)

聖書 Iヨハネ1・5～10

神様は光です。少しの暗いところもありません。私達はその光に照らされて、自分の罪がわかりました。罪をおわびして、イエス様の十字架を仰いで、罪をゆるしていただきました。十字架の上で流されたイエス様のきよい血が、私達をすべての罪からきよめつつけてくださるのです。いつでも神様のきよい明るい光の中を、神の子として歩きつづけて行きましょう。

2月12日(土)

聖書 Iヨハネ5・1～12

サインはV(ヴィ)ノつまり、VICTORY(ヴィクトリー)で、勝利です。世に勝つ者はイエスを神の子として信じて、神から生まれた神の子です。世の力も、ものすごい強さがありますよ。ちよっと、ぼーとしていたら押し流されたり、巻き込まれたりして大変なことになりかねません。しっかりと聖書に聴き従い、お祈りしていくとき、イエス様と共に勝利から勝利です!



聖書 エペソ 5・1～6

タイトル 愛のうちに

暗唱聖句 愛のうちに歩きなさい。
(エペソ 5・2)

目標 神様からいただいた愛の中を歩こう。

2月16日(水)

聖書 エペソ 3・14～21

これはパウロ先生の心からのお祈りです。聖霊がみんなの心を強くしてくださるように、信仰によって心の中にキリストをお宿しして、神様の愛に満たされ、愛から出る生活をするこにによって、神様を愛するすべての人と共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがわかるように、「人知をはるかに超えたキリストの愛」を知って、神様の内にあるもので満たされるように。

2月13日(日)

聖書 エペソ 5・1～6

お父さんに愛されていること、お母さんに愛されていること、おじいちゃん、おばあちゃん、お兄さん、お姉さん、弟や妹、お友だち、そしてハットにも、愛されていることはとても感謝なこと、うれしいことです。それに「神に愛されている子ども」だなんて、最高の喜びですね、神様になり、愛のうちに歩こうと、もちろん思うでしょう。感謝にあふれた1日を！

2月17日(木)

聖書 エペソ 4・1～5

愛はいつでもどこでも1つになります。今日の聖書には「1」という数字が7回も出ています。「聖霊による一致」が与えられるのです。高ぶることなくへりくだり、人を受け入れ、お互いに愛をもって忍び合って、争わないで1つとなって進んでほしいと、パウロはエペソ教会の人々をおし、私たちに書いています。主は1つ、信仰は1つ、洗礼は1つ。1つになれる喜び！

2月14日(月)

聖書 エペソ 1・1～7

びっくりするような神様の愛についてパウロは書いています。神様はイエス・キリストにあって、天上のありとあらゆるすべての祝福をもって私たちに祝福してくださっていること、キリストにあって天地の造られる前から私たちを選んでくださっていること。エーッ、気が遠くなりそう、神の子となるように、愛のうちに前もって決めていくべきだったというのです。

2月18日(金)

聖書 エペソ 4・11～16

教会ってあなたがいそだなあ、教会ってあたたかい所だなあ、教会って明るい所だなあ、教会ってきよい所だなあ、そうか、イエス様みたいな人ばかりがいるからだなんて、なぜって、教会の頭の部分がイエス様で、からだの部分がイエス様を信じる私たちひとりひとりだからです。教会だけでなく、私たちの家庭もこんなだったらすばらしいですね。愛のうちに共に育てられていきましよう。

2月15日(火)

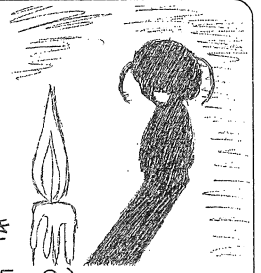
聖書 エペソ 2・1～10

どんな私たちでしたか？ 先には罪にまみれていた者、この世に流されていた者、欲ばりでわがままで、神様の怒りを受けても当り前の私たちだったのです。ところが、豊かなあわれみと大きな大きな愛をもって、罪に死んでいた私をキリストと共に生かして、共に天の座につかせてくださいました！それはこの絶大な神様の愛と恵みをあとにかく人々に伝えるためなのです。

2月19日(土)

聖書 エペソ 6・1～4

お父さんとお母さんは、私のために神様が与えてくださいました。私を育てることを神様からまかせられている人たちのですね。ですから子どもの私たちも、「主において両親に従い」ましょう。それが本当に神様を愛し、両親を愛するしるしとなります。育ててくださっている両親のことを考えてみると、この人たちはなんて不思議なすばらしい人たち！ときっと思います。



聖書

エペソ5・7～14

タイトル

光の子として

暗唱聖句

光の子らしく歩き
なさい。(エペソ5・8)

目標

光の子として、暗い世にあって歩
きつづけよう。

2月23日(水)

聖書 ヨハネ8・1～12

イエス様をわなにかけようとして、人々が罪を犯した女の人をつれてきました。「イエス様どうしますか」石をもつてつめよる人々に、地面になにか書いておられたイエス様は、「罪のない者が、まず石を」と言われ、人々の心はイエス様からの光に照らされ、罪を示されてみな去っていききました。光なるイエス様のもとにいた女の人だけが罪ゆるされ、光の子とされました。

2月20日(日)

聖書 エペソ5・7～14

だれでもやみはいやで、光はうれし
いです。暗いやみの中で、人はかくれ
て恥ずかしいことをします。神様を信
じていないときはそんな子どもでした。
でもイエス様の光に照らされて、罪が
わかり、罪をおわびしてゆるされて、
神様の明るい光の中に招き入れていた
だき、光の子となりました。主にあつ
て、いつも輝く子どもにならせていた
だき、キラキラ生きたいですね。

2月24日(木)

聖書 コロサイ1・9～14

「光のうちにいる聖徒たち」って
い言葉ですね。神様が私たちを恐ろし
い罪とやみの支配から救い出し、その
愛する御子の支配下に移してください
ました。私たちはこのイエス様によつ
て罪のゆるしを受けて、きよく愛に満
ちたイエス様の支配の中に入れられ
ました。イエス様がゼーんぶ責任をも
ってくださいます。神様に愛される子
どもとして光の中にいつもいましょ。

2月21日(月)

聖書 ヤコブ1・17～18

私たちの天の父なる神様は、光の子
どもの「光の父」です。天の父こそが
まことの光の源なのです。そしてこの
光の父から、「あらゆる良い贈り物、あ
らゆる完全な賜物」が下って来るとあ
ります。父には変化とか回転の影とか
がなくて、いつまでも変わることなく
私たちを愛しつづけ、いつもなくてな
らないものを与えつづけてくださって
います。なんとうれしいことでしょう。

2月25日(金)

聖書 ペリピ2・12～18

心の曲がったよこしまな世の中は、
2千年前も今も少しも変わっていませ
ん。ますます暗やみが濃くなると、星
は明るく輝きを増していくでしょう。
今こそ、神様の子どもたち、光の子ど
もたちが星のように輝くときです。そ
れは、「いのちの言葉を堅く持つて」で
す。み言葉の光に従って歩むことによ
ってです。世の中の考えとはしばしば
ちがうでしょう。そこで輝くのです。

2月22日(火)

聖書 ヨハネ1・1～13

光の父のみもとから良い贈り物、完全
な賜物として、私たちのために地上に
つかわされてこられたのが、「すべての
人を照らすまことの光」なる「イエス・
キリスト」なのです。光なるキリスト
は、また「言」とも言われています。
この言に命があつて、この命が人の光
となり、くらいやみの力を完全に消す
のです。この光がサッと入るだけで一瞬
にやみはなくなってしまいます。

2月26日(土)

聖書 箴言4・10～19

正しい者、すなわち、神様を信じる
者の道は、「夜明けの光のようだ、いよ
いよ輝きを増して真昼となる」とあり
ます。夜明けの美しい光、その神様の
芸術を見たことありますか？そして、
現れてくる太陽、まっ赤な日もありま
す。くぐくぐ輝きを増して真昼になら
す。私たちが歩く毎日毎日の歩み、道もそ
のようでありたいですね。ただみ言葉
に聴き従うのみです。



聖書

エペソ 5・15～21

タイトル

賢い者のように

暗唱聖句

賢い者のように歩き、
今の時を生かして用いなさい。

(エペソ 5・15、16)

目標

今の時をよく知って、賢く生きよう。

3月2日(水)

聖書 ダニエル 2・25～45

「しかし秘密をあらわすひとりの神が天におられます。」この神様を知る者こそ、真に賢い人といえます。驚くべきことに、ダニエルには王様の見た夢も、またその解き明かしも神様によって示されました。1つの大いなる像、バビロンを金の頭にした、これから起こってくる国々の像でした。1つの石がこの像を砕きます。これこそメシヤであるキリストのことでした。

2月27日(日)

聖書 エペソ 5・15～21

ねこはどのように歩くか知っていますか？ 踏んだらとても痛そうなのが、ある所でも、そとはずして歩くのです。神の子とされた私たちも、世の中の悪や汚れにとり囲まれているので、それらにそまったり、とらわれたりしない賢い歩き方をしないといけません。それには、神様の御霊に心を満たしていただいて、言葉にいつも耳を傾けて従っていくことです。

3月3日(木)

聖書 ダニエル 3・8～18

高ぶりの絶頂にあったネブカデネザル王は、高さ30メートルくらいの1つの大きな金の像をつくり拝ませ、拝まない者は誰でも火の燃える炉の中だと定めました。3青年、シャデラク、メシヤク、アベデネゴは拝みません。どの神が私の手から救つか、と怒りまくる王様の前で、「神様は救い出せます。しかしだといそうでなくても、拝みません」と答えました。

2月28日(月)

聖書 ダニエル 1・8～16

エリミヤやエゼキエルが預言をしていた時代、もう一人の賢い預言者ダニエルがバビロンとペルシヤで、真の神様をあかししました。15才くらいでバビロンの捕虜となり、真の神様を信じない地で60年も賢く歩きました。王様の食物や王様の飲む酒で自分を汚すまいと決心。野菜と水だけで、10日ためしましたが顔はつやつや、肉も肥え太って、その決心は祝福されました。

3月4日(金)

聖書 ダニエル 3・19～30

3青年はいつもより7倍熱い炉の中へ、ところが王様が見るとはったはずの縄もなく、彼らが火の中を歩いている。しかも3人ではなく、4人だ。4人目は神の子のようだ。王様はいと高き神の子のしもべ、シャデラク、メシヤク、アベデネゴに火の中から出るよう呼ぶと、何の害もなく出てきました。火のおいもついていません。王様は彼らの神をほめたたえました。

3月1日(火)

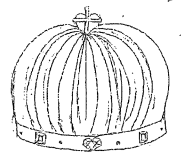
聖書 ダニエル 2・17～24

わがままな暴君ネブカデネザル王の無理な注文、自分が見た夢も、またその解き明かしもできないと、バビロン中の知者たちをみんな殺すぞ、と。そのような危機の中、ダニエルはしばらくの時をもらい、3人の友人たちに話し、共にこの日、夢の秘密が示されるように、天の神のあわれみを祈り求めました。するとついに夜、幻のうちにこの秘密がみごとに示されたのです。

3月5日(土)

聖書 ダニエル 6・10～24

3日間タリヨス王以外の者を拝む者はししの穴に、との命令をダニエルは知りつつ、いつものように真の神に1日3度祈りました。引き出されてししの穴に、しかし、翌朝王様が声をかけると、「私の神がししの口を開きされました」と、元気なダニエルの声。今、私たちの住む日本も異教の国で悪い時代です。真の神様を信じ、今の時を生かしてあかしし、賢く歩きたいですね。



黙示録 2・8～11

聖書

タイトル

暗唱聖句

いのちの冠

死に至るまで

忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう。(黙示録 2・10)

目標

主の再臨まで、主の前に出る時まで、忠実に進もう。

3月9日(水)

聖書 黙示録 1・17～20

ヨハネはきつともう90才をこえるおじいさんだったでしょう。イエス様を見た時、その足もとに倒れて死人のようになっしまいました。するとイエス様は、ヨハネの上に右手をおいて言われました。「恐れるな。わたしは初めであり、終りであり、まだ、生きている者である」と。ヨハネを信頼して、これからおこることを示すから、書きとめなさいと言われました。

3月6日(日)

聖書 黙示録 2・8～11

冠をかぶったことあるかしら？ 劇をした時、王様の役をして王冠をかぶったことがあるかもしれませんね。聖書にはイエス様がこの世に再びこられて地上の国は終わりが来ます。そして、神様による新しい天と地、神の国がうちたてられると書かれています。死に至るまで、終わりで、しっかりとイエス様を信じ従う人には、命の冠を与えてくださるとの約束です。

3月10日(木)

聖書 黙示録 2・1～7

7つの教会へのメッセージ。6日にはスミルナ教会あてでしたが、今日はエペソの教会の皆さんへの言葉です。あら、少しおとがめです。彼らのえらいところは忍耐強かったということでした。しかし、残念ながら「初めの愛から離れてしまった。だからどこから落ちてしまったか悔い改めて、はじめのようにイエス様を深く愛しましょう」と。私たちもそうですよね！

3月7日(月)

聖書 黙示録 2・1～7

この世の終わり？ そんな恐ろしいこと、って思っています。しかし、聖書にはイエス様を信じる人のために、未来の輝かしい希望があることが記されています。どんなことがおこるか、それを記してあるのが、ヨハネというイエス様に愛されていた弟子が書いた黙示録なのです。ここにイエス様のすばらしい紹介がしてあります。この方が雲に乗って再び来られるのです！

3月11日(金)

聖書 II テモテ 4・1～8

ここには「義の冠」が出てきます。パウロ先生らしいですね！パウロの最後の手紙といわれます。信仰の戦いを立派に戦いぬぎ、信仰を守りとおした。まさに「死に至るまで忠実」だったパウロには、イエス様から授けられようとしている義の冠がハッキリと見えていました。私だけでなく、主を待ち望むすべての人に授けられる、だから言葉を書き伝えよとパウロは勧めます。

3月8日(火)

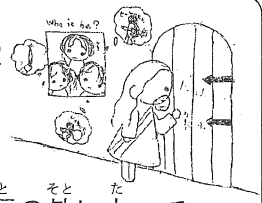
聖書 黙示録 1・9～16

ヨハネは信仰の迫害で、パトモスというさびしい島にいました。仲間の弟子たちは、もうみんな死んで神様のところに帰っていました。そのヨハネに、主の日にラツパのような大きな声が聞こえました。「書きものを7つの教会へ、声の主を見ようとふりむくと、7つの金の燭台の間に、人の子のような方がおられました。それは教会の頭で、教会を守られるイエス様でした。

3月12日(土)

聖書 黙示録 22・12～21

聖書の一番最後のところです。イエス様が約束して言われます。「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。わたしは初めであり、終りである」と。だから、私たちもイエス様の花嫁(神の子)として、「アメン、主イエスよ、きてください」と御霊と共に言います。イエス様を今、お迎えできるように準備しましょう！



聖書

黙示録 3・14～22

タイトル

交わりの希望

暗唱聖句

見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。(黙示録 3・20)

目標

キリストとの最高の交わりを保ち続けよう。

3月16日(水)

聖書 雅歌 2・8～17

「見よ、冬は過ぎ」「もろもろの花は地にあらわれ、鳥のさえずる時がきた」。さあ、立ってでてきなさい。あなたの顔を見せなさい。あなたの声を聞かせなさいと、イエス様は私たちを招いていてくださいます。私たちのありのままの顔を見てくださり、私たちの祈りの声を聞きたいと言ってください。います。さあ、何でもイエス様の名によって神様にお話ししましょう。

3月13日(日)

聖書 黙示録 3・14～22

神様は私たちと交わりをするために、私たちを造られました。ここに出てくる7番目のラオデキヤ教会というのはとてもなまめくるて、神様は口からはき出そうと言われるくらいでした。そんな教会でも、イエス様は戸の外に立ってたたいて、中に入って交わりをしようと言ってください。今日、イエス様はあなたの心もノックしておられます。心の戸をあけましょう。

3月17日(木)

聖書 雅歌 5・1

いつもよくお腹がすいて、よく食べる子どもはだれでしょう。いつもよくのどが渴いて、いっぱい飲む子どもはだれでしょう。イエス様が「友よ、食え、飲め、愛する人々よ大いに飲め」と言われます。イエス様もよく食べ、よく飲まれましたが、ここでは神様の愛や恵みの言葉をしっかり食べて味わい、魂をゆたかにする水として深く飲みなさいと言われています。

3月14日(月)

聖書 黙示録 3・7～13

ヒラデルヒヤにある教会は、イエス様からほめられています。少ししか力がなかったにもかかわらず、イエス様の言葉を守り、イエス様の名を隠したりしなかったからです。そのような彼らのために、ダビデのかぎを持つお方であるイエス様が、だれにも閉じられない門を開かれました。今も私たちのために、イエス様をおして神様との交わりの門が大きく開かれています。

3月18日(金)

聖書 雅歌 6・1～3

「わたしはわが愛する人のもの、わが愛するものはわたしのものです」。今日、「イエス様、私はあなたのものです」とお祈りしましょう。イエス様が考えられたように考え、イエス様が歩かれたように歩き、イエス様になされたようにしたいです。そして、イエス様、あなたは私のものとなってくださって本当に感謝します。今日1日、いつも共にいてください。

3月15日(火)

聖書 雅歌 2・1～7

雅歌にはイエス様と、イエス様を信じる私たちとの素晴らしい交わりのことが歌われています。みんなはイエス様のことが好きですよ。大好きで、心から愛し、心から慕っていますか。イエス様が花婿です。教会、すなわちイエス様を信じる私たちは花嫁なのです。「わたしの上にひるがえる彼の旗は愛であった」。イエス様があなたを愛している、あなたは私のものと言われます。

3月19日(土)

聖書 雅歌 8・5～7

「愛は死のように強く」。死は何もかも飲みほしてしまつほど強いものです。が、本当の愛、神様の愛、イエス様の愛もそれほど強いものなのです。愛はどんな大水もそれを消すことはできません。洪水もおぼれさせることはできません。イエス様の愛はなんて力強く、変わらない、すばらしい愛。こんな愛なるイエス様を、心の底から愛して深く交わりを続けましょう。



ルカ23・39～43

聖書

タイトル

十字架の上の希望

暗唱聖句

あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。(ルカ23・43)

目標

キリストにあつてのみ、どこでも希望が与えられることを知る。

3月23日(水)

聖書 イザヤ50・4～9

まるでイザヤはイエス様が人々から打たれ、ののしられ、あざけられ、苦しめられているのをそばで見ているかのように、主のしもべの苦しみを描いています。神様に逆らったり、そっぽを向いたりせず、打つ者にその背をまかせ、ひげをぬく者にそのほおをまかせ、恥とつばきをもろにその顔に受けられました。イエス様、私の罪のために苦しんでくださり感謝します。

3月20日(日)

聖書 ルカ23・39～43

3本の十字架、そこには一見、死が時間の問題となり、希望が全く消え失せた3人の人々がつけられていました。ところがまん中の1番の罪人がつけられる十字架にかけられたイエス様が、「父よ、彼らをおゆるしてください」と祈れるのを聞いた片方の罪人の心に希望の光が与えられました。「私を思い出してください」との祈りに「わたしと一緒にパラダイスに」と！

3月24日(木)

聖書 イザヤ52・13～15

13節から53章12節までが第4番目のしもべの歌ですが、2つに分けて味わうことにします。「彼は高められ、あげられ、ひじょうに高くなる」の、「あげられ」というのは十字架の上にあげられの意味もこめられた言葉です。十字架の上ではイエス様の顔だちは多くの人々が驚くほどゆがめられ、痛めつけられました。そんなにもひどい苦しみを、私のために受けられました。

3月21日(月)

聖書 イザヤ42・1～9

希望の預言者イザヤが4つの「苦難の主のしもべの歌」を記しています。この受難週にこれらの歌を味わい、そんな苦しみの中にも輝く希望に心をこめましょう。イエス様は本当に神様に選ばれ、喜ばれた主のしもべでした。いたんで弱々しくなった「あし」を決して折ることをしない、ほの暗くなつて煙るばかりの灯心も消すことなく、明るく燃やしてくださいます。

3月25日(金)

聖書 イザヤ53・1～12

悲しみの人、にくみきらわれ、侮られ、打たれ、たたかれ、苦しめられたイエス様、それはみんな私たちのとがと不義のためでした。イエス様が受けた懲らしめで、私は平安が与えられ、打たれたその傷で、私はいやされました。イエス様はしえただけられ、苦しめられても黙って、神様のみ旨に従いました。なぜならそこに光、人々の救いという希望の光を見たからです。

3月22日(火)

聖書 イザヤ49・1～6

海沿いの国々よ、遠いところのもろの民よ耳を傾けよ、と注目させられます。「主なる神様が、私を召し出してくださいているのです」と。イエス様の口からは鋭いつるぎのような言葉が発せられ、人々の心に突きささり、罪を示し、救いへと導きます。その救いは地の果てにまでも及びます。イエス様は全人類の光です。この真の光にのみ希望があります。

3月26日(土)

聖書 ヘブル12・1～11

イエス様がそんなにもひどい仕打ちと、苦しみと恥に耐えることができたのは、「自分の前におかれている喜びのゆえに」と書かれています。その喜びは、父なる神様のみ心をなしとげる喜び、もう一つは、イエス様を信じて救いに入れられる人々がおこされる喜びでした。なんと清い喜びでしょう。このイエス様のお苦しみと忍耐を思えば、どんな苦しみにも負けませんね。



Iテサロニケ4・13～18

聖書

タイトル

暗唱聖句

復活の希望

空中で主に会い、
こうして、いつも主と共にいるであ
ろう。(Iテサロニケ4・17)

目標

キリストの復活は、終わりの日の復
活につながる。

3月30日(水)

聖書 Iコリント15・20～28

「事実」、ほんとに、まちがはなく、
現実におこったこと、それがキリス
トの復活でした。眠っている者の初穂と
して、死人の中からよみがえったとあ
ります。初めての穂が出ると、そのあ
と次々と同じように穂が出てくるよう
に、イエス様が死人の中からよみがえ
られたように、イエス様を信じる人は
みんな必ずよみがえるのです。希望の
中の希望です！

3月27日(日)

聖書 Iテサロニケ4・13～18

イースター、おめでとーございます！
よみがえられたイエス様、そしてイエ
ス様を死人の中からよみがえらせた父
なる神様を心からたたえましょう！死
は終わりではありません。ハレルヤ！
イエス様が再び来られる時、まず信じ
て死んだ人がよみがえらされ、空中へ
引き上げられ、生き残っている者が次
に引き上げられ、空中で主に会い、い
つまでも主と共にいるのです。

3月31日(木)

聖書 Iコリント15・42～49

「復活」とはなんと輝かしいことな
のでしょ。死んだ人がよみがえるので
す。が、もとの同じ身体と魂にはありま
せん。もとの身体は朽ちるものでした。
死んで腐っていたものが、死なない腐
らない身体によみがえります。卑しい
ものが栄光あるものに、弱いものが強
いものに、肉のからだに霊のからだに
よみがえるのです。私たちの造り主な
る神様の愛がじーんとききます。

3月28日(月)

聖書 Iコリント15・1～5

一番大事なこことってなんだと思いま
すか？それは、「キリストが、聖書に
書いてあるとおり、私たちの罪のため
に死んだこと、そして葬られたこと、
聖書に書いてあるとおり、三日目によ
みがえったこと」です。本当におこっ
たのできことを信じるのが、祝福
に満ちた人生の扉を開く、たった1つ
の力ギなのです。どんな問題も解決す
るたった1つの力ギです。

4月1日(金)

聖書 Iコリント15・50～53

この日がいづつ来るのか、父なる神様
以外にはだれも知らないのですが、い
つか必ず、絶対に来るのです。すこい
一瞬です。まばたきする一瞬ですよ。
そんなにも短い一瞬の間に、あまりに
も大きな変化がおこるのです。きのう
見たように、朽ちるものが朽ちないも
のに、死ぬものが死なないものに変わ
るのです！大好きな人が死ぬのは悲し
いけれど、またきつと会えるのです！

3月29日(火)

聖書 Iコリント15・6～11

よみがえられたイエス様はケパ(ペ
テロ)に現れ、12人に現れ、五百人以
上の兄弟たちに、ヤコブに、すべての
使徒たちに現れ、最後にダマスコへの
道でパウロに現れました。そこで迫害者
パウロが、大天使パウロに生まれ変わ
りました！神の恵みはパウロに、もの
すごいパワーを注ぎ、イエス様の救い
が力強く伝えられました。あなたも復
活の主に会いましたか。

4月2日(土)

聖書 Iコリント15・54～58

その時、聖書のイザヤ25・8や、ホ
セア13・14に書いてある言葉がそのと
おりになります。死は勝利にのまれて
しまつて、もうなんの力もなくなつて
しまふのです。だから、こんなすごい
希望の約束を神様からもらっているの
だから、いつでも力いっぱい神様のた
めに働きましょう。小さい私たちも、
神様のお手伝いができます。教会へお
友だちをどんどん誘いたいですね！